

富津市社会教育委員会議会議録

| | |
|------------------|--|
| 1 会議の名称 | 平成30年度第1回富津市社会教育委員会議 |
| 2 開催日時 | 平成30年6月1日(金) 午後2時00分～午後3時30分 |
| 3 開催場所 | 富津市役所502会議室 |
| 4 審議等事項 | (1) 平成29年度富津市社会教育事業について (2) 平成30年度富津市社会教育事業について (3) 富津市生涯学習・社会教育推進体制と社会教育委員について (4) 「富津市子どもの読書活動推進計画の」立案について |
| 5 出席者名 | (社会教育委員) 鹿島順、竹内義和、加藤喜一、宮内和男、斎藤啓一、 中村智也、大野泰代、高橋栄二、杉田玲子、 磯貝順子、石井喜美子 (事務局) 岡根教育長、笹生教育部長、當眞生涯学習課長、 伊藤生涯学習課長補佐、檜原主事、 市川社会教育指導員、森田社会教育指導員、 伊藤社会教育指導員、牧田家庭教育指導員 |
| 6 公開又は 非公開の別 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開 |
| 7 傍聴人数 | 0 人(定員 5人) |
| 8 所管課 | 教育部生涯学習課社会教育係 電話 80-1345 |
| 9 会議録 (発言の内容) | 別紙のとおり |

第1回 富津市社会教育委員会議会議録

| 発言者 | 発言内容 |
|------------------------|---|
| <p>(事務局) 當眞課長</p> | <p>それでは定刻前ではございますが、出席委員の皆様お揃いでございますので、只今より始めさせていただきます。</p> <p>本日は何かとお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。進行を務めます生涯学習課長の當眞と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>開会に先立ちまして、今年度新たに富津市社会教育委員になられました皆様に委嘱状の交付をさせていただきます。</p> <p>お名前を読み上げますので、その場でご起立をお願いいたします。岡根教育長と笹生教育部長が皆様の前に回ってまいりますので、お1人ずつお受け取り願います。</p> |
| <p>(事務局) 岡根教育長</p> | <p>(委嘱状を交付する。)</p> |
| <p>(事務局) 當眞課長</p> | <p>ありがとうございました。それでは、新しく委員となられた方もいらっしゃいますので、委員の皆様の自己紹介をお願いいたします。名簿順に鹿島委員からお願いいたします。</p> |
| <p>各委員</p> | <p>(自己紹介をする。)</p> |
| <p>(事務局) 當眞課長</p> | <p>ありがとうございました。続きまして、事務局職員の自己紹介を行います。教育長からお願いいたします。</p> |

| | |
|----------------|--|
| 各職員 | (自己紹介をする。) |
| (事務局) 當眞課長 | <p>ここで、会議の公開につきまして説明させていただきます。</p> <p>本会議は、富津市情報公開条例第 23 条第 1 項の規定によりまして公開となります。このため、後ほど会議録署名人 2 名を決めていただきたいと思います。また、会議録作成のため録音をさせていただきますので、ご了承願います。</p> <p>会議に先立ちまして、出欠席の報告をさせていただきます。</p> <p>本日の出席委員は 11 名、欠席委員は 2 名でございます。したがって、過半数の出席がございますので、社会教育委員会議運営規則第 3 条第 5 項の規定により、会議は成立いたします。</p> <p>それでは、ただ今から平成 30 年度第 1 回富津市社会教育委員会議を始めさせていただきます。</p> <p>はじめに、高橋委員長からご挨拶をお願いいたします。</p> |
| 高橋委員長 | (委員長あいさつ) |
| (事務局) 當眞課長 | <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、岡根教育長からあいさつを申し上げます。</p> |
| (事務局) 岡根教育長 | (教育長あいさつ) |

| | |
|-----------------------|--|
| <p>(事務局) 當眞課長</p> | <p>ありがとうございました。</p> <p>これより、議事の進行につきましては、富津市社会教育委員会会議運営規則第3条第4項の規定により、高橋委員長により進めさせていただきますが、まず会議録署名人2名を決めていただきたいと思ひます。それでは、高橋議長お願いいたします。</p> |
| <p>(議長) 高橋委員長</p> | <p>それでは、議題(1)に入る前に議事録署名人についてですが、慣例により私から指名ということですが、よろしいでしょうか。</p> |
| <p>各委員</p> | <p>異議なし。</p> |
| <p>(議長) 高橋委員長</p> | <p>では、私から鹿島順委員と大野泰代委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。ご異議ないでしょうか。</p> |
| <p>各委員</p> | <p>異議なし。</p> |
| <p>(議長) 高橋委員長</p> | <p>ご異議ないようですので、会議録署名人は、鹿島順委員と大野泰代委員に決定いたしました。</p> <p>それでは、議題(1)平成29年度富津市社会教育事業について、及び関連しておりますので、議題(2)平成30年度富津市社会教育事業について、事務局よりお願いしたいと思います。</p> |

| | |
|-------------------------|---|
| <p>(事務局) 伊藤課長補佐</p> | <p>それでは例年ですと、教育委員会の点検・評価の資料を基に議題（１）を説明するのですが、昨年度分につきましては今まさに作成中ですので、初めての方もいらっしゃると思いますので、包括的な内容も含めてご説明させていただきます。</p> <p>１ ページめくっていただきまして、社会教育委員名簿の中に皆様のお名前が書かれておりまして、その横に法区分という項目がございます。学校教育、社会教育、家庭教育、学識経験者ということで、なぜこのようになっているかの説明からまいりたいと思います。</p> <p>２ ページを開いてください。社会教育法が書いてありまして、第１５条に都道府県及び市区町村に社会教育委員を置くことができるとなっております。その委員をどのように選ぶかについては、市町村で決めるということです。</p> <p>３ ページには、富津市社会教育委員に関する条例が書かれていますが、第２条に学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から委嘱するというようになっております。そこで、皆様の選出団体等へ事務局が依頼をして推薦をいただいた方々が社会教育委員となっております。その総会等の充て職の関係で４月、５月で新たな委員が委嘱されたということになっております。残りの期間１年弱ですけれどもよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>続いて社会教育委員の職務についてですが、２ページに戻っていただきまして、まず１つ、社会教育に関する諸計画を立案すること。次に教育委員会の諮問に応じ、これに対して意見を</p> |
|-------------------------|---|

述べることができます。そして、この2つの職務を行うために必要な研究調査を行うことが主な職務となっております。皆様、大所高所からご意見をいただきたいと思います。忌憚のないご意見をお聞かせください。それでは、議題の内容に入りたいと思います。

私どもの生涯学習というのは、教育委員会の中の富津市教育施策に則って動くわけでございます。その第1部、学校教育の充実のほかは全て生涯学習の管轄となっております。学校教育以外の教育ということは、ゆりかごから墓場まで関わることであります。非常に掴みどころのない仕事で、社会教育とは何かと聞かれると一言でいうのがかなり難しい。集まってらっしゃる委員の皆様も同じような印象をお持ちかと思っております。この会議を重ね、活動をしていく中でイメージができていけばいいと思っています。

続いて、5ページが教育委員会の配置表となりますが、こちらが教育委員会の全員となります。教育委員会というのは教育長がトップにあたりまして、教育委員4名の組織が教育委員会。我々はその事務局です。平成28年度からは市長を筆頭とする総合教育会議が開かれるようになりました。市長部局と教育委員会が協力をして、市を挙げて教育施策に取り組んでいく体制になっています。

6ページを開いてください。教育委員会フロアの座席表です。開かれた教育委員会を目指しております。

次に、7ページから10ページにかけて我々生涯学習部門の職

員がどのような仕事に携わっているか、事務分掌が書いてあります。この1つ1つを見ていただければおおよそ生涯学習の範囲を網羅しているものと思われれます。分野といたしましては、社会教育係は掴みどころのない社会教育をはじめとして、図書館が無い市ですから図書も重要な業務の1つとなっています。

8ページを開いていただきますと、社会教育指導員、家庭教育指導員の先生方の名前が書かれています。皆様、校長先生経験者でございます。学校と社会教育の橋渡し、新規の橋渡し等をしていただく重要な役目を担っています。社会教育指導員の先生方はそれぞれ公民館、市民会館に配属されており、家庭教育指導員の先生は本庁生涯学習課と2階の子育て相談窓口勤務しております。よろしく願いいたします。

続きまして文化係ですが、遺跡の発掘調査等に携わり、文化芸術を含めて文化財の保存と活用に努めております。

最後にスポーツ振興係ですが、社会体育の企画及び振興に関すること、社会体育行事の計画立案、運営を職務としております。

先程、点検評価を材料に昨年度の事業を振り返ることが例年のことであると申し上げましたが、11ページにありますのが富津市教育施策の数値目標となっています。この内容が概ね点検評価の指標になるものでございます。今まで挙げたそれぞれの職務を代表させ、皆の仕事がうまくいっているのかということ測ってみるという数値になっております。指標の内容についてはそれぞれありますけれども、このような評価の体制をとっ

ているということになります。

12 ページ、13 ページを開いていただきます。富津市教育施策の中で子どもの読書活動推進計画ともう1つ生涯学習推進計画がございます。この生涯学習推進計画をどうしようかという検討会もございました。昨年度末にご意見を統一させていただいた内容としましては、当市としても学校と生涯学習を別々のものではなくそれぞれ関連性が高まってまいりましたので、一緒に全ての施策を行うという観点からも富津市教育施策の中で生涯学習推進の計画を盛り込もうということで皆様にもご検討いただいたところがございます。今後は、富津市教育施策に血肉を付ける形で皆様からのご意見をこの1年賜れば幸いです。よろしく願いいたします。

さて、昨年度から今年度にかけて市民の皆様方の力をお借りして生涯学習に生かすということをテーマにして取り組んでまいりました。大きなフィールドとしては図書になりますが、まず、皆様のご意見をこの3年間ほど現場の視察からはじまりまして子ども読書活動計画の立案にこぎつけました。その中でご意見を賜り、立派な図書館を作るといったことも中長期的に見れば必要だけれども、とりあえず現在ある施設をフルに活用していないじゃないかということで、フルに活用できるような状態にもっていきましょうという提言を受けました。そこで、以前から行っていましたが、昨年度は特に職場体験ですとか、富津市制施行されて以来初めての除籍に向けて作業を開始し、ボランティアの方々に集まっていただき4,000冊もの除籍処分を

することができ、その 4,000 冊を市民の皆様にお持ち帰りいただくイベントも開催することができました。その 4 割ほどの本が皆様の手元に渡り、大変有意義な時間となりました。本来の目的としては、図書室をきれいにしようということで、特に中央公民館の作業でそれまでは 2 重、3 重に本が並んでいたり、通路にまで本があふれていて見る気もしないという感じであったが、そこが心地よい場所となり、若い子育て世代のボランティアの方々が大工さんのような事をしてくれたりして改修作業が順調に進みました。また、閲覧室だった元映写室で設計された部屋が今では畳が敷かれており、子どもの絵本の部屋になっています。たまに行くと親子連れが寝転がって絵本を読み聞かせしたりしている光景もありました。

数値としては、先程見ました図書に関して申しますと 11 ページの上から 2 番目、図書の利用冊数はここ数年 25,000 冊が境目であり、目標値を 26,000 冊に設定しておりましたが、平成 29 年度は集計したところ 28,000 冊を超えておりました。また、利用者数は 8,000 人前後で推移しておりましたが、9,900 人となりました。新規登録者も増えており、今まで図書室があることを知らなかった方が多いと思われます。中々有意義な試みであり、今年度も続けていきたいと思えます。

それと市民ボランティアの方々が 6 月 3 日に公民館カフェを開催します。その方々の試みは君津地区 4 市の中でも先進的な試みです。普通、公民館が音頭をとって市民が集まってくるのが一般的であり、職員が動かないとできないとおっしゃる方

が多い中、市民の方々が自主的に集まって公民館へやらせてくださいと来ていることがとてもいいことであり、初めは公民館側も拒絶反応を示していましたが、慣れてくるとボランティアのお力を拝借して公民館もどんどんきれいになっています。今、中央公民館をご覧になった方、ご覧になっていない方もいらっしゃると思いますが、行くとその場に居たくなるような空間になっています。新しい風が吹いているようで素晴らしいと思います。小さい方からお年寄りの方まで憩える場所になりつつあるのではないかと思います、公民館の懐の深さが見えるような思いです。

この路線で富津市はこれから財政的に予算が少ない中、職員が減少している中、市民の皆様の方が1番必要だということで、その橋渡しの役をそれぞれの団体の代表として出席されている方を中心とした社会教育委員の皆様にしていかなければいけないというところがございます。また認識を新たにさせていただきまして、昨年度に引き続き今年度もよろしく願いいたします。

(議長)
高橋委員長

事務局から説明が終わりました。
委員の皆様からご質問等ございますでしょうか。

宮内委員

いいですか。

| | |
|-------------------------|--|
| <p>(議長) 高橋委員長</p> | <p>はい。宮内委員。</p> |
| <p>宮内委員</p> | <p>先ほど説明いただいて素晴らしいと思ったのは公民館カフェで、中央公民館は本当に事務局がおっしゃるように私も行ってみて大分変わったなと思っています。</p> <p>そこで、公民館カフェをまたこれからやるということですが、今までやってきた中で実績はどのようになっていますか。何人くらい来ていらっしゃいますか。</p> |
| <p>(議長) 高橋委員長</p> | <p>事務局知っていますか。</p> |
| <p>(事務局) 伊藤課長補佐</p> | <p>人数的な把握は、実はボランティアの中でも部分的にしか集計していないもので、記憶にある中では400人以上は来ていると思います。というのは、同時に1回目に開催したリサイクル会の時に本をご覧になった方が200人以上いらっしゃったということで、その倍以上は来館していると思います。</p> |
| <p>宮内委員</p> | <p>はい。ありがとうございました。</p> |
| <p>(議長) 高橋委員長</p> | <p>他にございますでしょうか。</p> <p>特にないようですので、議題(3)富津市生涯学習・社会教育推進体制と社会教育委員について、議題を移したいと思いま</p> |

| | |
|-------------------------|---|
| <p>(事務局) 伊藤課長補佐</p> | <p>す。事務局説明をお願いいたします。</p> <p>13 ページの下、生涯学習推進体制について、冒頭から申しておりますとおり、この図自体が体制を表していたものであります。旧体制なわけですが、基本構想の将来都市像を実現するために富津市第3次基本計画が策定されて、これと並行して富津市生涯学習推進計画の第3次計画が平成27年度を目標年度として定められました。その後、記憶には新しいとは思いますが破綻報道等ございまして、市民会議等立ち上げたりして事業の見直し等もかなりありました。その中でその計画を引き継がずに新たなものということで、今では総合戦略というものが立てられています。その全国的な施策の中での流れで総合戦略が策定されていますが、網羅的なものではございませんので、それを基本としながらもそれとは別に教育施策を独自で作っていく必要があるかと思われます。この教育施策の中に生涯学習推進計画を発展的に統合する方向で検討を進めることになったと書いてあります。この教育施策の生涯学習部門と学校教育とリンクしたものをどのように作っていくかということを皆様方のご意見を反映させながら作っていきたいと考えております。ご協力をお願いいたします。</p> <p>その中の先ほどから地域と申しておりますが、地域学校共同活動のパンフレットがございまして。こちらは文部科学省が作成しているもので、1ページを見ていただきますと図の真ん中にあるのが社会教育で、家庭教育と学校教育を繋ぐというイメージ</p> |
|-------------------------|---|

ジです。そこで、周りにある学校支援、土曜日・放課後活動、まちづくり、子どもの学習支援など補助金の項目が文部科学省や厚生労働省から作られていて、それぞれ団体が作られ、学校の支援、子どもたちの支援に伝わっていくイメージで今まで分立していたのですが、皆様もご経験あると思いますけれども、1人の方が色々な団体に属していて、それぞれ異なる仕事に就いていることをございますので、皆様が一同に集まれる場所を作れないかというフィールドを社会教育が中心になってやっていくべきではないかという図です。

文部科学省でも地域が絡むと社会教育、生涯学習課とセットになっています。忠実に行っている自治体はコミュニティスクールも生涯学習課が中心となっています。富津市としましてはご覧のとおり私以下1人の係員、司書でやっておりますので手が回らない状況でございます。これを図のとおりに進めていくためには、皆様方をはじめとしたコーディネート能力を持った方々の働きが必要であるということです。是非このような気持ちで、青少年相談員やPTAの方など色々な方がいらっしゃる中でそれぞれの力をお貸りできる、だけど、一体どこで何をすればいいのだろうというところを振り分ける機能を作らなければいけないと感じています。

1番最後のページを開いていただいて、その機能を任せるのが、例えば学校である場合に地域学校協働本部を設置しなさいという説明です。この本部を設置している千葉県内自治体の色塗りマップが出始めています。そのうち市の中で設置していな

い自治体でカウントされていくかもしれません。

実は、子どもの読書活動推進計画も後2年ほどで千葉県内全ての市で計画を作りたいというプランです。富津市は計画を作ることができました。もう1つブックスタートもそうです。こちら県内で3自治体のみ行っていないところが一昨年までありました。銚子市、白子町、富津市ですが、富津市は昨年度から絵本の配布をする本格実施まで行うことができました。また、昨年の富津市重大ニュースに選ばれました。これも市民ボランティアの皆様のおかげです。というような形で先ほどと同じことですけれども、富津市の生涯学習推進体制の中で1番大事なのは市民の力です。市民の皆様が自分たちの住みよいまちにするために、力を惜しみなく発揮できるような場所をいかに行政が提供できるかというところにかかっていると思います。皆様方のご協力を意識的にお願いしたいと思います。以上です。

(議長)
高橋委員長 事務局の説明が終わりました。皆様からご質問等ございますでしょうか。

杉田副委員長 よろしいでしょうか。

(議長)
高橋委員長 はい。杉田副委員長。

| | |
|--------|---|
| 杉田副委員長 | <p>私から伺いたいのですけれども、最後に説明していただいた地域学校協働活動についてですが、他市で教育委員会の中にまちづくり課のような部署があると聞きましたが、富津市では教育委員会の中や市役所の中にまちづくり課のような、あるいは中身が同じような部署はあるのでしょうか。それとも新しくそのような部署を作ろうという構想はあるのでしょうか。</p> |
| (議長) | <p>はい。では、事務局お願いします。</p> |
| 高橋委員長 | |
| (事務局) | <p>まちづくり課というものは前にありました。今は都市政策課となっていますが、どちらかというところインフラの整備等が中心となっています。</p> |
| 伊藤課長補佐 | <p>やはり、市民の方々の力を使い、活性化を願ってそれを集約するために市民課の中に市民活動推進室があります。ただ、市民活動推進室も音頭をとるのではなく、データを集積して、利用者の状況に合わせて提供するスタンスとなっています。それからボランティアの方々の保険対応等を行っています。そこにボランティアをしたい方が保険に入ると、どの団体で作業をしていても、地域の活動を行っていても保険の対象となります。是非ご活用ください。</p> <p>今、お話があったのはボランティアの方々が何かやりたいとなったときに振り分けの機能を持つのが地域学校活動協働本部となりますが、そのようなものは現状ないです。それをどこで</p> |

| | |
|----------------------------|---|
| | <p>やるかという、1番近いのは生涯学習課になると思います。生涯学習課と学校で協働してやらなければいけないところですよ。</p> <p>少し伺ったのは、子育ての環境をこれからどのように整えられていくのか、若い方たちが富津市で子育てをしたいというように思ってもらうためにはどのように、こちらに例えば加藤委員や竹内委員や皆様PTAの関係の方も、そういった世代の方たちを例えば柱にしてとか交えてとか、そういったところで若いという言葉は語弊があるかもしれないですけど、子育てのことを皮切りに私みたいに熟年層に達した人間もそこに乗っかってこんなこと一緒にできないかなというような課なのかどうかは分かりませんが、私は欲しいと思っております。いかがでしょうか。</p> |
| <p>(議長)</p> | <p>事務局どうぞ。</p> |
| <p>高橋委員長</p> | |
| <p>(事務局)</p> <p>伊藤課長補佐</p> | <p>健康福祉部の中に子育て支援課があります。子育て支援課で今、牧田家庭教育指導員が週1回火曜日に子育ての話何でも聞きます窓口の当番として行っていますけれども、そこは毎日相談員がいる形です。ただ、そこは悩んだ親御さんですとか、複雑な問題を抱えた方などがよくいらっしゃいます。だけれども、もっと軽い気持ちで集まれることを子育て支援課は望んでい</p> |

| | |
|--------|---|
| | て、そのようなフロアも用意しておりますし、議会棟の和室も開放しています。 |
| 杉田副委員長 | はい。ありがとうございます。 |
| (議長) | 他にございますでしょうか。 |
| 高橋委員長 | |
| (事務局) | ちょっといいですか。 |
| 岡根教育長 | |
| (議長) | はい。岡根教育長。 |
| 高橋委員長 | |
| (事務局) | 今のお話を伺っていて、例えば高橋市長は部屋が空いていると「なかよし」といって何もない広い所でいいから若いお母さんたちが話を出来る場所を作ったりして、それが結構好評で、そうしたら市役所の職員が座るイスがあったらとか、使わなくなった子育ての用具や本などが結構集まったりして雰囲気が出てきて、そういう力がどんどん動いている。公民館カフェも中庭の草を取って芝生にしようとか色々な人達が関わろうとする力が生まれきていることは事実ですね。 |
| 岡根教育長 | 3ページに書いてあるような図のようなものを最初に作ってやりましょうというのと、形だけはできても中の人達の伸びはあ |

まり出てこないけれど、やはり活動している人がいたり、また、こんなことであればお手伝いができるねという人たちをどうコーディネートするかということが非常に大きな課題のような気がします。

学校を中心に考えれば、この図そのものがいわゆるコミュニティスクールと同じで、各地区代表の方が来て学校の思っていること話して、学校に皆協力してもらいますよという中心が学校になってきて、同じような組織を作ろうと思えば作れるのですが、それはなんとなく学校がやろうとしていることを子ども中心の関係で行える。この地域学校協働本部というのは、本当にもっと幅広い形で、それでも学校を入れていかないと子どもたちも入っていかないのでこのような図なんでしょうけれども、いわゆる公民館カフェのように自分達でやれることを皆でやろう、そして無理せずに長続きするようなことをやっていこうというものをコーディネートするところが本当は必要かなと思います。やはりやるからにはそういう人たちをうまくまとめいくような、ですから、皆様方のご提言の中にこういう活動をするにあたっては、こういう人達の集まりの会の立ち上げを少しずつやっていこうというような。これはやはり上からくると長続きしないような気がしますね。そのような感じがしますので、それこそやれる範囲の中で少しずつやっていくのが手かなという感じがします。

杉田副委員長

よろしいですか。

| | |
|---------------|--|
| <p>(議長)</p> | <p>はい。</p> |
| <p>高橋委員長</p> | |
| <p>杉田副委員長</p> | <p>お答えいただいて有り難かったです。少し整理ができました。もやっとした気持ちでそのようなものがあつたらなという気持ちのまま発言してしまったので、実際には前回の図書リサイクル会などは伊藤課長補佐がまさしくコーディネートしてくれたなという思いで私たち関わらせていただいているのですが、昨年度末寒くなってからですか、中学生に向けては夜の学習指導をしてくださって、小学生に向けては聞いた時に冬だったので、こちらにいらっしゃる鹿島委員にも伺ったことありますけれども、先に伊藤課長補佐から聞いていたので、小学生にも15時以降の放課後児童教室とその時はそのような名称で聞いていましたけども、公民館で学童保育とは別にそのような教室を開くことで公民館に市民が目を向けているところだと思いますので、コーディネーターというのは、もしかしたら本来であれば私なんか最初から公民館にいる人がコーディネーターになってくれたらそのようなことが全て解消できるのではないかと、わざわざ市役所の中に作ってほしいなんていう発想ではないはずだったなということ思い出したようなところがありますけれども、何かそのような形で放課後の子どもの時間をどのようにしていくかということをもたどこかで皆様とお話できたらと思います。ありがとうございました。</p> |

| | |
|-------------------------|---|
| <p>(議長) 高橋委員長</p> | <p>はい。ありがとうございます。加えていらっしゃいますか。</p> |
| <p>(事務局) 伊藤課長補佐</p> | <p>せっかくお話が出ましたので、牧田家庭教育指導員が退出して今どこに向かっているのかというと中央公民館で金曜日の放課後の子どもたちを待っています。17時くらいまで子どもをお預かりして保護者へ引き渡すということを行っています。今のところ3名の登録があります。市民の方々、杉田副委員長も行っていただいて読み聞かせでもしていただけたらと思います。</p> |
| <p>杉田副委員長</p> | <p>お話を伺ったばかりの時に小学生を待ち構えていたのですが、小学生が見当たらなかったのも、中学生を見つけて図書室が実はきれいになったよ、説明するから少し着いてきてよと言って2名の女子でしたけれども、最初はそのような形で一緒に行きましたけど、どんな本が好きなんて聞いたら料理の本と答え、そのまま様子を見ていると2人でかなりの時間図書室にいました。</p> <p>学校からも公民館で放課後子ども教室があるということも言ってもらっていると思いますけれども、どのように子どもたちに目を向けてもらうかが課題かなと思います。若いこれからの子どもたちがどうやってここに関わってくれるかなと楽しみも持ちました。ありがとうございます。</p> |

| | |
|-------------------------|---|
| <p>(議長) 高橋委員長</p> | <p>続いてございませんか。</p> <p>ないようですので、次に移りたいと思います。</p> <p>議題(4)「富津市子どもの読書活動推進計画」の立案について、事務局からお願いします。</p> |
| <p>(事務局) 伊藤課長補佐</p> | <p>冒頭からお話しているとおおり、3年ほど前から富津市の図書、読書環境について、行き先は子どもの読書活動に繋がっていくわけですけれども、そこに対してのご意見等いただきたいと思っています。これは全国的な流れで子どもの読書活動推進計画を作りなさいよということで、国、県が進めていく取り組みの中の1つです。それに応えて草案というものが平成21年度くらいに司書を中心に作られた骨組みに血肉をつけていく作業をしてきたわけです。特にこれを通読していただくと委員の方のご意見として、これは計画というか報告も入っているという声をいただきましたが、そこがまさしく力を注いだところです。なぜかと言いますと、説明はしなかったのですが、後で予算書をじっくり見ていただきますと、このようなお金の流れだということが分かると思います。特に歳出で教育部は学校や社会教育の施設が多いですから、金額がかかるのはそのような建物になってしまいますが、その他の施策でも本来は予算を組んでいかなければいけない。けれども、予算がない中でこのようにやっていますよという、何度も言いますけれども、まず職員があるもので頑張っていこうというところに、市民の方々が自主的に集まっていただいて、やがて市民が活動を始めていただいてという</p> |

流れが特に図書室の改修で割と詳しく書いてあります。そして、うるさいくらいここで職員がとか、生涯学習課がとか公民館がとか書いているのは、誰がやったかということを確認にしないといつの間にかボランティアでやっていることが市の手柄みたいになってしまっているというご意見もあったので、逐一うるさいくらいに書かせていただきました。それがかえって正確にというか、過剰かもしれませんが伝えたいところであります。このようにして、市民の方が何かしようと思ったときにこうやって活動できているんだなという例にでもなればと思って、これを読んでいただいた方が、何かを始めていただくきっかけにでもなればというところが1番の力を入れたところでございます。

この計画の立案が、社会教育委員の第1の職務になっていきます。これを会議で立案していただくことが、この3年間の作業の集大成として今日なわけでございます。富津市の歴史始まって以来の社会教育委員の立案となっています。本当にありがとうございます。

これを熟読していただいて、皆様のご意見を今までに何度もいただいて、それは反映させていただいてこのようになっています。そして、それを基にして例えば21ページの富津市子どもの読書活動推進計画の位置づけなどにまとまっていて、この柱として左下にある基本方針を載せています。そして、右下に具体的にはこのようなことをやっていきますということになっています。これは、この先に教育施策の中の関連セクションに反

映されるということになっています。順番としては教育施策があつて、それを基に個別の計画としてありますという形になります。

先ほど申しました 12 ページの貸出実績の数字を見ていただきたいと思います。平成 29 年度の右下の数値、25,000 冊が目標だったわけですがけれども、28,000 冊以上の貸出数となつておりまして、かなり昨年の作業で図書室に初めて来てくださる方が増えたということでございます。それから、もう 1 つ有難かつたのは、この検討作業の中で移動図書館のスケジュールが学校の休み時間と合わなくて中々利用できないという記述があつたところ、それは問題ではないかという発言を社会教育委員会議の中でいただいて、早速年度替わりでしたので検討させていただきました。今年は、業間休みと昼休み、放課後全ての時間に合わせた形でございます。子どもたちが利用でき、利用者数上がるものだと思っています。では、よろしく申し上げます。

(議長)
高橋委員長

はい。この計画について、何かご意見があればお願いいたします。

石井委員

はい。

(議長)
高橋委員長

はい。石井委員。

石井委員

前回の子どもの読書活動推進計画を皆様で話し合ったものが、ものすごく反映されているように感じました。具体的にどのようなところがということをお申し上げますと、まず数値目標がきちんと入っていたことですね。数値目標があるとそれぞれ色々な立場で見たときに、このくらいだという客観的な数値で分かるということが大変よかったのではないかなと思いました。

それから、先ほど伊藤課長補佐からご説明があったように、11ページの学校・保育所等の巡回ですけれども、文言がほとんど変わっていて明確になっているのではないかなと感じました。

質問ですけれども、17ページの図書選定及び除籍（廃棄）の基準について、各学校における除籍基準の制定が進むことを目標としますとありますが、これは具体的にどんなことなのか、教えていただけたらと思います。

最後ですが、今、自分は障害のある方の相談の仕事をしているのですが、環境整備等々の中でやはり共生社会というか、色々な立場の方が公民館を利用できるという観点から、身体の不自由な方とか、目の不自由な方とか、色々な立場の方も活用できるというような条件整備をこの文言の裏側には書かれていると思いますけれども、そういったものが具体的なところで示されて対応していただけたら自分の仕事柄、非常にそういうところに直面しておりますので是非お願いできればなと思っております。以上です。

| | |
|-------------------------|--|
| <p>(議長) 高橋委員長</p> | <p>では、事務局お願いします。</p> |
| <p>(事務局) 伊藤課長補佐</p> | <p>色々改善点をご指摘いただきましてありがとうございます。</p> <p>今、ご質問があった除籍についてですが、移動図書館の除籍基準はあったのですが、ずっと執行したことがなく、初めてできたということで、今まで人手不足ということもありました。</p> <p>学校図書は図書の基準がございますよね。生徒数や学校規模などで決まっていて、その基準数をクリアしているかどうかというのが、クリアしているところとそうでないところをどう評価するということが長らくありまして、この頃はその評価が絶対ではない、別にそれでいいのではないかという形でもあろうかと思えます。なぜかという、今までの富津市にある図書室と同じように古い本がいっぱいあって規模に見合わない、本当であれば3分の1くらいの量が適正なのという規模のフロアに本があふれていたということがありましたので、本が少なくなったから悪いことではなくて、それが健全に利用できるために必要なことであると身をもって分かったところですね。なので、学校等でも冊数を維持しようとするあまり、古い本や皆が見ない本があふれるよりは、皆が見て、争って借りるような本を充実させていった方がいいのではないかという流れです。ということで、やはり新しい本を入れるためには、古い本をどうにかしなければいけないということ、新陳代謝していかないと健全に運営することはできないということです。</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>あと、障害者のことについてですが、それはどのあたりにどのような文言や施策が必要だということを、専門の立場からご教示いただければ有り難いと思います。よろしく申し上げます。</p> |
| 石井委員 | <p>それから、これをこの場で言うべきか分かりませんが、13ページの文字と写真がずれていると思いますので事務局の方でご確認いただけたらと思います。以上です。</p> |
| (議長) | <p>はい。他に指摘等はございますか。</p> |
| 高橋委員長 | |
| 杉田副委員長 | <p>あります。度々申し訳ありません。</p> <p>7ページにあります、富津市ではボランティアの資質向上や新しいメンバーを養成するために定期的に講習会を開催し、またお互いの情報交換の場を設けるなどの手助けをしていきますという文言ですが、現在計画している講習会ですとか、今まで続けている講習会をここで話していただけたらと思います。</p> <p>それから11ページにあります、富津市の図書施設では1人1回6冊までの貸出ですね。お隣の君津市の図書館でもお世話になっているのですが、あちらは1人1回10冊ですが、それでも足りないときがあるので、家族でカードを作ったりしているのが現状です。ですから、富津市も1人1回6冊ということにしていますが、この6冊というのは増やすことは可能でしょうか。何か基準があって6冊にしているのでしょうか。</p> |

それから、学校図書のお話の中で今日の会議に向けて昨日、湊小学校へ出向いてまいりました。大貫小学校はいつも活動の場として使わせていただいているので、大体分かるところはありますが、他校がどのようなになっているか、現状を把握したいという思いで伺ってきました。ちょうど天羽中学校の校舎改築の問題がありまして、小学校と中学校が一緒になっているスタイルを見せてもらって何か新しさを感じたりしました。その中で中学校の本棚も少ないというような感じがしましたが、そのところは対応してくださった先生が岡根教育長がこういうような私達に課題なり色々なことで、とにかく子どもの本を手取る充実化をという話を私にもしてくださったので、このところは時間のない中ですのでまた経過を見せていただきながら次回伺いたいと思います。

18 ページの地域ボランティアの活動について、限られた人員の教職員だけでは学校図書館の整備を進めることはできません。これからも更にボランティアをはじめとした地域の方々の協力が得られる環境づくりに努めます。という話ですが、これは、伊藤課長補佐に何度もそのような話を聞いていただいたりしたこともありますが、地域の司書、図書ということに関わると、やはり基本的な司書の知識が無くても地域の間人がボランティアとして関わるといような、少し基本的なことを勉強しないといけないなということを私が感じているところでして、そのボランティアをしたい人たちのための図書に関わる勉強会のようなものを企画されたらどうかと思っています。です

| | |
|-------------------------|--|
| <p>(議長) 高橋委員長</p> | <p>から、図書の知識に対して講座など学習の場が必要ではないか と思います。</p> <p>では、事務局説明をお願いします。</p> |
| <p>(事務局) 伊藤課長補佐</p> | <p>まず、読み聞かせボランティア入門講座というものがありま す。これは古くは司書がやっていますが、中央公民館から何年 かやって、それから3年前、2年前には市民会館ということで、 それぞれを母体としてサークルや主催事業として活発にご活躍 していただいているところです。かねがね富津公民館でやって もらえないかという打診をしていたところで、この間の指導員 会議の際に話が出たのですが、いよいよ講習が始まりまして9 月から開講するということです。こちらにもそのような方々が 集まっていただけの機会ができました。もちろんブックスター ト等でスキルアップするための講習会もしていかなければいけ ないと考えています。それから杉田副委員長の紹介で、また、 わらべ歌と絡めた講師の方ですとか、そのような方々もいくつ かの公民館でやっていただいているというのも関連かございま す。</p> <p>冊数についてですが、これは数年前にそれまで1人1回3冊 だったものを、システムが導入されて6冊にしたという経緯が あります。今、6冊以上借りると受け付けない形となっていま すが、システム上もさることながら、やはり図書施設の規模と</p> |

| | |
|----------------------------|---|
| | <p>してトータルがそこまであるわけではございませんので、現状の対応となっています。おっしゃるとおりそれでは足りない方は、ご家族のカードを作っていただくのが通例となっています。そこらはバランスの問題がありますので、しばらくはこのままのスタイルかと思います。これで図書館でもできたらそのときにという形だと思います。</p> |
| <p>杉田副委員長</p> | <p>お話の途中でいいですか。</p> <p>永年、図書館が無い分、小学校単位でお話し会のサークルが立ち上がったので、富津市内では個人に任せてお勉強は求めて色々な場に出向いていますが、やはり図書館が無くて市の方で、例えば他市で行っている絵本作家の先生を呼んだりすることで、分かったつもりでいる我々ですが、そういったところが違う立場の先生から伺えるという機会がスキルアップになると思いますので、年に1回とか2年に1回とかどこかで始めていただけるといいなと思っています。要望します。</p> |
| <p>(事務局)</p> <p>伊藤課長補佐</p> | <p>何事も予算が伴うものでございます。善処していきたいと思っています。</p> <p>地域ボランティアをどのように育てていくかについて、司書の専門資格が無くても携われる仕事はあるのではないかということはおっしゃるとおりです。中央公民館の図書ボランティアの方々も返却本を配架、または書棚に戻すという作業だとか、本のクリーニングを行う作業はやっていただいています。大変</p> |

| | |
|-------------------------|--|
| | <p>助かっています。そのような作業に携われるというのは、少しのレクチャーでできるものだと思っておりますので、ここも体制づくりだと思います。冒頭申し上げました地域学校協働本部ではないですけれども、そういった堅苦しい名前でもなくとも、そのような受け皿があればできるのではないかと考えています。ただ、具体的にどこがやるのか等の話もありますので、また検討が必要だと思います。</p> |
| <p>杉田副委員長</p> | <p>今、中央公民館では本のクリーニング作業のボランティアを始めていますが、そのくらいのことであれば、誰でも出来るという意味では、富津公民館はどうか分かりませんが、市民会館であればすぐできると思いますけれど、市民会館はまだやられてないですね。</p> |
| <p>(事務局) 伊藤課長補佐</p> | <p>市民会館ではまだ行っていません。といいますのも、公民館の職員も減っています。15年くらい前は正職員も今より2人ほど多かったです。そのような状態ですので、各公民館にお願いすることができないところがあります。やはり体制づくりが重要です。ただ、初動が大変なので、市民の方が集まっていたいてお任せできるようになれば、本当に楽になるのではないかと実感しておりますので、そこをいかに職員に負担してもらおうところになるかと思っています。</p> |

| | |
|--------|--|
| 杉田副委員長 | <p>1つだけこれからも発言するにあたって、聞いていただきたいことは、1番最初に本に関わることを要望みたいなお話をする時に、とても神経を使いました。司書が1人しかいないということを知ってはいるながらも前回、前々回の会議でお話させていただいたと思いますが、ですから、この場ではあくまでも市民がこうなったらいいとか何でも出せる場であってほしいと願って言わせてもらいます。そして、それを聞いてくださる市役所の皆様には、色々な手順で揉んでいただいて、どこからであればできる、これはこのような角度からであればできるなどというように思っていたきたいです。そうでないと人手が少ないことも知っていますし、何か意見が出しにくくなってしまいますので、そのような思いをお願いします。</p> |
| (事務局) | はい。ありがとうございます。 |
| 伊藤課長補佐 | |
| 磯貝委員 | すみません。 |
| (議長) | はい。磯貝委員。 |
| 高橋委員長 | |
| 磯貝委員 | <p>今年も読み聞かせボランティア入門講座を開いていただいて大変感謝しております。私自身もこの読み聞かせボランティア入門講座を受講させていただいて、講座で出会った仲間とサー</p> |

クルを立ち上げて、現在、市内の小学校をはじめとした色々な施設でお話し会をさせていただいています。

やはり、先ほど杉田副委員長からもありましたが、私たちのレベルを上げていくために、自分たちで講習会に参加したりしていますけれども、ある程度レベルを上げていくことが学校の中へも通じていくのではないかと思います。それで、今年度学校教育の中でも読書についてかなり力を入れているということを知りましたので、色々お金の面もあると思いますけれども、やはりレベルを上げていくためにもボランティアの人たちの講習会を市の中で考えていただけると大変有り難いと思っています。

(議長)

他に意見ございませんでしょうか。

高橋委員長

また、修正等あるかと思いますが、今の意見を聞いて事務局の修正をお願いします。

では、次に移りたいと思います。その他に入りたいと思います。4市と県の大会について、事務局からお願いします。

(事務局)

伊藤課長補佐

ここには書かれていないのですが、大きなところから説明させていただきます。

全国大会のチラシがあると思いますけれども、毎年全国大会と関東甲信越静、県の大会と4市の大会が開催されています。ご存知のとおりご記憶にはあるかと思いますが、平成26年度まで当市でも生涯学習推進大会がございましたが、休止と

なっておりますので、せめて4市の大会には参加してほしいというところがございます。こういう大会というのは、その時々
の社会情勢を反映したテーマとなっております。一昨年度の全
国大会は千葉大会でした。千葉大会の分科会のあり方がそれ以
降も引き継がれるということで、特に君津地方が発信の少人数
の語り合いというスタイルがそこから継承されており、中々君
津地方は全国区だと思います。

関東甲信越静岡大会の資料をご覧くださいてもよろしいでしょ
うか。こちらの大会は新たな流れとして、公民館と社会福祉協
議会がタイアップしております。まさに今、中央公民館がフィ
ールドになって子ども食堂が始まりました。そのような方々との
タイアップもこれから社会教育のテリトリーに入っていくか
と思います。目的が同じだということですね。これが全国的
な流れを示しています。

というところで、第53回君津地方社会教育推進大会の説明
となります。8年に2年連続で回ってくる大会です。今年度と
来年度は富津市で開催となっておりますので、皆様方のご協力
をお願いしたいと思います。参加者を募っていただくという協力
が主になるかと思います。昨年度から大会テーマが変わりまし
た。その中の流れで昨年度どのような内容で行ったのかという
と、地元の面白いものを見つけないという演題でお願いしたと
ころ、静岡県三島市のスーパー公務員の方が映画作りを立ち上
げ、そこに市民が参加して本格的な映画を作ったところ国際賞
を受賞した作品になったということです。スケールがとても大

大きく、壮大なお話でした。ただ、目的はそのようなものを作っておしまいということではなく、一緒に何かを作ることがスタートであるとおっしゃっていたので、目的はこれから一緒にやっていくものだとして理解しました。今年度もその路線でいくとして、地元の何でもないところに光を当てて、例えばよそ者の視線で見たときに、この何でもないところが素晴らしいのではないかとこのところをクローズアップしたい。また、地元の地道な活動が素晴らしい成果をもたらしたりするようなことを、よくご存知である千葉日報社の編集局社会部長の伊澤さんが講師として担当することとなりました。お題は今のところ未定です。この方のお話を70分から80分ほど伺い、私もこのようなことができるのではないかとこの気持ちにつながればよいと思います。その前にスポンサーであります新日鐵住金君津製作所で実は大会運営費の半分以上をいただいていることもあり、クローバー賞の表彰式を行います。クローバー賞は4市の中から新日鐵住金君津製作所が選んだ地元の貢献賞のようなものであり、そちらを授与する式となっています。そこで、我々4市社会教育委員顕彰の表彰も設けています。また、会場市の市長、教育長も参加するセレモニーとなっておりますので、よろしくお願いいたします。

(議長)

はい。ありがとうございます。

高橋委員長

その他でございますが、何か委員の皆様からありますでしょうか。

| | |
|-----------------|--|
| 大野委員 | はい。 |
| (議長) 高橋委員長 | はい。大野委員。 |
| 大野委員 | 先日、5月29日に千葉県連合婦人会の総会がありました。そのときにいただいた資料の中に、平成30年度社会教育専門講座地域社会教育指導者研修会が7月12日に千葉県教育委員会主催で、お題が学校と地域連携のため社会教育委員に期待される役割、社会教育委員が地域連携のキーパーソンということで、もしご希望の方がいらっしゃいましたら行かれたらどうかと思います。会場は県の総合教育センターだそうです。 |
| (議長) 高橋委員長 | 事務局説明をお願いします。 |
| (事務局) 伊藤課長補佐 | それは君津地方推進大会の2日前の大会ですね。実は代議員会というのがありまして、富津市ですと高橋委員長が代議員ですが、代議員会が終わった後に開催される研修会がどなたでも参加希望であれば出ることができますので、その宣伝であったと思われま。また、社会教育委員の方々も広く参加をしてくださいということだと思います。ちなみにそちらは連合婦人会にも流れていたということですよ。 |

| | |
|-------------------------|---|
| <p>大野委員</p> | <p>総会の出席者に1枚ずつ配られました。私は都合で行くことができません。</p> |
| <p>(事務局) 伊藤課長補佐</p> | <p>それでは、随分広く広報されていますね。</p> |
| <p>大野委員</p> | <p>総会の際に、県の教育委員会の方が来られたので、その関係で配られたものだと思います。とりあえず資料に載っていませんでしたので報告いたしました。</p> |
| <p>(事務局) 伊藤課長補佐</p> | <p>どうもありがとうございます。</p> |
| <p>(議長) 高橋委員長</p> | <p>はい。ありがとうございました。</p> |
| <p>(事務局) 當眞課長</p> | <p>では、生涯学習課から報告が1点ございます。 昨日、教育委員会定例会におきまして、富津市図書施設の雑誌サポーター制度というのが創設されました。これは先ほどから話題になっておりますnigiwaiさんが図書ボランティアの公民館カフェ等でチャリティーを開催いたしました。その収益金を富津市は図書の購入代金の中々厳しいものがございまして、雑誌等の購入が中々できていないところがありました。今回、中央公民館で親子ゆっくりできる場を設けたということで、子</p> |

どもは絵本等見れますけれども、大人が見る雑誌が欲しいよね
ということで、nigiwai さんの方から雑誌を是非とも提供した
いということで、そのために富津市図書施設雑誌サポーター制
度を設けさせていただきました。これでは分かりにくいですが
れども、雑誌の裏面にビニールシートを敷きましてスポンサー
ラベルを、またそのスポンサーの方がどういったことをやって
いるかという広告、例えば薬局の方が薬局名、こういう薬を売
っていますよという個人事業主の方向けに雑誌を購入してい
ただいて、雑誌を提供していただくという制度を設けさせてい
ただきました。まずはnigiwai さんが雑誌を提供していくとい
うことで、今回6月3日にまた公民館カフェを開催するという
ことで、そのチャリティーの収益金を雑誌の方に還元してい
ただくという流れになっております。そのような流れで是非とも
雑誌スポンサーになりたいという方がお近くにいらっしゃいま
したら、生涯学習課までお声かけいただければと思います。雑
誌は図書費の方では中々購入できないのですが、そのような形
でご協力願えればと思っております。よろしく願いいたしま
す。

(議長)
高橋委員長

ありがとうございました。2件ありましたが、他になにかご
ざいますでしょうか。

(事務局)
伊藤課長補佐

はい。千葉県環境生活部県民生活・文化課が作成している、
ちば文化資産投票のパンフレットですが、地元にも光を当てよう

| | |
|-----------------------|---|
| | <p>シリーズということで、先日応募があったちば文化資産の中から富津市を題材にしたものは5つか6つ出ていましたが、そのうちの2つは内裏塚古墳と弁天山古墳、また竹岡ラーメンや、金谷から見た東京湾フェリーの景観などがありました。この他にも県内各地のちば文化資産を選定するための作品が出ておりますので投票をしていただけたらと思います。ホームページを見ていただくと詳しい内容がありますので、是非投票をお願いいたします。</p> |
| <p>(議長) 高橋委員長</p> | <p>はい。ありがとうございました。</p> <p>他にないようですので、これで本日の会議は全て終了となります。皆様のご協力に感謝申し上げます。本日の会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。</p> |
| <p>(事務局) 當眞課長</p> | <p>ありがとうございました。</p> <p>以上を持ちまして、平成30年度第1回社会教育委員会会議を閉会といたします。お疲れ様でした。</p> |